

シリコンバレーのガレッジ文化と融合する  
深圳

世界的なもののづくりの同人活動「メイカム  
ムーブメント」

二〇一二年に発刊された「メイカーズ  
二二世紀の産業革命が始まる」から、メイカ  
ームムーブメントという言葉が一般紙や経済  
誌でも聞かれるようになった。著者のクリ  
ス・アンダーセンはそれまでも「ロングテ  
ール」「フリーミアム」など、新しい概念をう  
まく言語化して、その後一般社会に定着さ  
せている。メイカムムーブメントとは、個人  
的な欲求、多くはホビーベースで発明を行  
うホビイストの発明したものが、ソニーや  
アップルのような大メーカーの製品と同じ  
ように流通し、世界をアップデートするに  
至る一連の動きを指す。製造業のメーカー  
とは違う新しいカテゴリで、メイカーと表  
記する。

メイカムムーブメント以前と以後で、ホ  
ビイスト発明を取り巻く状況はこう変わっ  
た。

| 開発フェーズ           | メイカーズ以前                  | メイカーズ以後  |
|------------------|--------------------------|--|
| 1.アイデア<br>(情報収集) | 専門の学会<br>大企業の社内          | インターネット経由の<br>コミュニティ                                       |
| 2.プロトタ<br>イプ     | 高度で専門的な<br>知識と機械         | 3Dプリンタなどのデ<br>ジタル工作機械が普及<br>し、共有スペースも                      |
| 3.初期投資           | 大量の資料と稟<br>議書、投資家の<br>説得 | クラウドファンディン<br>グなどで、同好の士を<br>相手に出資とテストマ<br>ーケティングを同時に<br>行う |
| 4.販売             | 専門の販売部隊                  |  |

かつて自分で製品を発明し、世間に対して  
販売するためには、そのための場所（大メ  
ーカーに就職するなど）にたつ必要があった。

インターネットの進化とデジタル工作機  
械の普及は、知識の共有や初期投資までカ  
バーするいくつかのコミュニティを生み出  
し、いまでは「ものを作る」というのが、「マ  
ンガを書く」「音楽をやる」と同じレイヤ  
ーの創作活動として受け入れられつつある。

昼間は普通の仕事をしながら自分の時間  
に興味のもののづくりを行う、学生時代にグ  
ループでもものづくりを行う、そしてコミュ  
ニティ内で圧倒的な支持を得たらフルタイ  
ムのプロデビュールを考える。もちろん、「作  
って楽しむこと」が最大の目的で、全員がプ  
ロを目指すわけではない。「メイカーズ」は  
そうしたメイカーたちによるものづくりの  
同人活動を生んだ。書籍のサブタイトルに  
「二二世紀の産業革命が始まる」という言  
葉が入っていることから、量産・製造の話が  
メインに扱われることも多いが、書籍の内  
容はほとんどがホビーから製品が立ち上  
るところに割かれている。

今日のDIYは明日のメイドインアメリカ

メイカムムーブメントにあわせて、さま  
ざまな国の政府も政策を変えようとしてい  
る。アメリカのオバマ前大統領は全米の中  
学校に工作機械の共有スペースを作るため  
の制度を作り、メイカムムーブメント以前  
の二〇〇六年からアメリカ西海岸など各地  
で行われていたDIYもののづくりの祭典「メ  
イカーフェア」をホワイトハウスで開催し、  
その日をナショナル・メイキング・デイと宣  
言した。スピーチでは今のアップルのスタ  
ートが、八〇年代のまだコンピュータが専

門家だけのものだった時代に、自家醸造コンピュータクラブというマニア向けのコミュニティでステイブ・ジョブズとウォズニアックがガレージで作った手製の基板を売り始めたところから始まったエピソードと、それがメイカームーブメントによって今連続して起こるようになっていたことを伝えつつ、「今日の DIY は明日のメイドインアメリカです。」と語った。日本でも叫ばれるプログラミングの教育への導入などは、こうした流れに連なるものだ。

このホワイトハウスメイカーフェアでヒーローになったのは、ジョー・フリーディという当時一三歳の少年で、すでにいくつかの発明品をメイカーフェアで見せることで有名になっていた彼は、インテルの最年少チームとしてオバマ大統領の前で、空気圧でマシユマロを打ち出す大砲を披露し、驚くオバマと得意そうな少年の写真は全世界に拡散された。そして今年一八歳になる彼は、去年から深圳で働いている。

### 「メイカーズのハリウッド」深圳を支える Seed

世界の工場として知られる深圳は、今メイカーズのハリウッドとも呼ばれ、世界からメイカーズが集まる場所として知られている。ホビイストも含めた DIY ていどの人たちにとつても中国の深圳がハリウッドたり得るのは、メイカー支援企業 Seed(以下シード)と社長エリック・パンの存在が大きい。

アメリカでもまだ「メイカーズ」がマイナーな存在だった二〇〇八年、エリック・パンはシード(当時は Seed Studio と称していた。大きくなった二〇一四年頃からは単に

Seed と称している)を創業した。一九八三年生まれのエリック・パンはまだ二五歳。重慶大学で電子工学と組み込みソフトウェアを学び、憧れの会社だったインテルに入社したが、想定していた研究開発とは遠い大企業の仕事の仕方が合わず退社。中国全土を自転車で行ったりしながら、深圳に移ってきたばかりだった。

インターネットコミュニティで情報を交換しながら自由にもものづくりをするメイカーたちに惹かれたエリックたちが始めたビジネスは、世界のメイカーからオンラインで電子基板の設計データを受け取り、深圳で PCB 基板を製造して戻すサービスだ。どの電子機器にも入っている PCB 基板は、設計ソフトが無料化され、インターネットで設計データを公開する動きが始まっていた。Seed は深圳の工場群と連携してそれを現実化するサービスを提供し、重ねて「設計データを公開してかまわない、オープンソースのハードウェアのみを受け付ける」ことでメイカーたちをさらに後押しした。一〇枚から試作を依頼でき、その場合のコストはわずか10ドルほど。オンラインで見積もり・支払いができて、設計データをアップすると郵送で完成した基板が届く。

さながら深圳の工場群をクラウドコンピュータインングのように使う、「クラウド深圳」とも言うべきこのサービスは当たり前し、世界中のメイカーたちが使っている。Seed は世界のメイカーイベントもサポートしている。アメリカ・東京ほか、世界の多くの「メイカーフェア」で Seed のブースやスポンサードを見ることができ、二〇一三年からは中国最初のメイカーフェアを深圳で開催している。 ※ 写 真

01\_bigseedvision.jpg

キャプション：Seed のビジネスモデル。アイデアだけで製品が作れない Dreamer から、10000 個以上の製品を生産するハードウェア企業までの全階層をサポートすることを表している。すべてのベースに Dreamer があり、どの段階でも Dreamer でありつづけるところに Seed の思想が垣よく現れている。

そしてメイカームーブメントが興った二〇一二年、シリコンバレー発で世界最初のハードウェアアクセラレータ HAX が、深圳で創業した。

アクセラレータとは、アイデアやプロトタイプはあるがビジネスに至らない起業家をサポートしてベンチャー企業にするサードビスだ。投資だけでなく、ビジネスを成り立たせるためのさまざまな支援を行い、会社を大きくすることで資金を回収する。シリコンバレーは世界で最もアクセラレータが集まる街で、初期のアクセラレータ Airbnb に行った有名企業が生まれている。

HAX はハードウェアを専門にした世界最初のアクセラレータで、世界中のアイデアをシリコンバレーで集め、選ばれたチームを深圳で数ヶ月の合宿を行って、アイデアをビジネスに仕上げる。コンシューマ向け製品はクラウドファンディングに出すが、これまで数十プロジェクトを手かかげてすべて成功している。前述の Seed 創業者エリック・パンは HAX の創業にも関わっていて、初期の HAX は Seed のオフィスを間借りして活動していて、今も協力関係は続いている。シリコンバレーと中国、異なる

地で興ったメイカームーブメントがここで融合し、アイデアから起業にいたるエコシステムができあがった。「深圳での1週間は、シリコンバレーでの1ヶ月に匹敵する」と HAX はいう。

### 中国で勃興するメイカームーブメント

Seed は深圳の企業だが、顧客の大半は欧米のメイカーだ。メイカームーブメントの発祥はアメリカで、Seed の活動は中国企業としては例外と言っている。前述の HAX についてもラボは深圳だが、アイデアは世界中から集まってくる。

ある程度大きくなった Seed は、二〇一一年に柴火创客空間というメイカースペースを深圳に立ち上げた。欧米型の DIY メイカー活動を地元深圳でも根付かせていこうという、ボランティアなコミュニティ活動で、実際にそこから多くのプロジェクトが生まれ、いくつかはベンチャー企業や大学のプロジェクトになっている。何よりも柴火はいつもメイカーたちのコミュニティとして、お互いの楽しさをさらに強くしている。

前回の連載で木村公一郎氏が触れたように、二〇一五年の一月に李克強首相が訪れたのはこの柴火创客空間である。柴火は前回で詳しく触れられた「大衆創業・万衆創新（大衆からの創業、万人からのイノベーション）」のモデルケースとされた。DIY から始まった欧米のメイカームーブメントに比べてやや産業振興に偏りすぎているものの、まったく別方向というほどでもない。

柴火はこの流れを受けてボランティアな活動から会社化し、深圳柴火创客文化传播有限公司を立ち上げた。中国全体に向けて

メイカー文化を伝搬し、学校の教育プログラムに DIY を組み込んでいくことや、中国の各地でメイカーフェアをプロデュースしていくことなどを事業にしている。前述のアメリカのメイカー少年ジョー・フリーディは、この柴火でインターンとして自分のプロジェクトを進めている。

写真 03\_深圳でのジョー

キャプション：右から筆者、ジョー・フリーディ、エリック・パン、世界的なメイカーのミッチ・オルトマン。深圳はメイカーが集まる場所となっている。

つまり今深圳は、

① 間接的に世界のホビイストたちを支える Seed などのオンラインサービス

② HAX の参加者など、起業してフルタイムで働き、最速でアイデアを市場化する世界の人のためのラボや製造パートナー

③ 柴火のようにメイカー文化を発信していく

という三つの役割を果たしている。③は欧米→深圳という流れだが、②の HAX 卒業生に投資する中国の投資家も増えていて、以前はサンフランシスコだけで行われていた HAX の投資家向け説明会が今は深圳でも行われている。メイカムーブメントは世界的な動きで、シリコンバレーにも深圳にも固有の役割がある。深圳は発明を生む世界的なエコシステムの一部を担っている。

※今回触れたメイカムーブメントと深圳の役割については、拙著「メイカーズノエコシステム」に詳細しています。

たかす まさかず

チームラボ Make 部発起人。世界のメイカーを繋げることに関心がある。メイカーフェア深圳・シンガポール実行委員。

写真 202\_エリック、Seed.jpg は、どこかでエリック・パンの写真が必要ときに予備として置いてあります